

# 鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2013.11 vol.91

## 第2回 地域医療連携懇談会を開催して

去る10月3日（木）に、第12回鹿児島医療センター主催地域医療支援病院運営委員会と第2回地域医療連携懇談会を、城山観光ホテルにて開催しました。

地域医療支援病院運営委員会には、外部より鹿児島県医師会副会長 野村秀洋先生、鹿児島市医師会会長 猪鹿倉忠彦先生、鹿児島県薬剤師会会長 内野悟先生、鹿児島市保健所所長 徳留修身先生の4名の方々にご出席頂きました。

当院からは、院長、副院長、統括診療部長、臨床研究部長、看護部長、事務部長、メディカルサポートセンター長、退院調整看護師長、MSW 2名、および外来係長が参加しました。委員会では、①規定、②地域医療支援病院紹介率・逆紹介率の推移、③月別患者紹介率及び逆紹介率、④救急患者取扱件数、⑤大型医療機器共同利用の実績、⑥ドクターヘリ件数、⑦地域の医療従事者向け研修実績、⑧開放型登録医の状況報告等を通して、当院の運営および連携について有益なご質問やご意見を頂きました。

運営委員会後の第2回地域医療連携懇談会には、外部から253名、今回は前回は上回る総数393名の方に出席して頂きました。

花田修一院長の開会挨拶に始まり、猪鹿倉会パルランド病院院長猪鹿倉忠彦先生に連携医療機関代表の挨拶をして頂き、会が開催されました。

まず、鹿児島医療センターから下記①～⑤の報告をいたしました。

①「脳神経外科の主な手術治療について」：今村 純一 統括診療部長

②「心臓血管外科この1年」：森山 由紀則 心臓血管外科部長

③「鹿児島医療センター外科の現状と展望」：弧方 輝夫 外科医長

④「鹿児島医療センター救急科新設について」：堂籠 博 救急科部長

⑤「メディカルサポートセンターについて」：永重 ひとみ 退院調整看護師長  
 昨年は、循環器、がん、脳卒中部門、およびメディカルサポートセンターから、それぞれ1人約15分の報告でしたが、今回は、1人約5分という制限にもかかわらず簡潔かつ明解にまとめて頂いたため、続く意見交換会の時間を充分に取ることが出来ました。

鹿児島県医師会 副会長の野村秀洋先生からの乾杯のご発声により始まった意見交換会では、当院および地域連携室の今後の在り方について貴重なご意見を多数頂きました。今回の懇談会でさらに、各施設と当院の各スタッフとの交流が深まったのではないかと思います。

至らぬ点が多々あったことと思いますが、会の進行にご協力いただきありがとうございました。

貴重な医療費や財源を有効に活用するためには、地域医療の連携を密にすることが大事と心得、これからも「顔の見えるメディカルサポートセンター」を目指してまいりますので、今後ともどうぞご支援、ご指導よろしくお願いいたします。

（文責：メディカルサポートセンター長 兼 地域医療連携室長 藺田 正浩）



## 診療科紹介 小児科

南九州中央病院の頃から小児循環器に特化した外来を行って参りましたが、現在も吉永 正夫部長のもと常勤2名、非常勤1名で毎日循環器外来を行っております。

また、ここ数年鹿児島市の小児医療は激動の時期を迎え、平成23年に市立病院小児科と市医師会病院小児科が統合、小児救急拠点病院が市立病院へ移譲されました。循環器に限りませんが、平成22年 鹿児島大学心臓血管外科に井本 浩 教授が就任され、平成24年から本格的に新生児複雑心臓病の手術が可能となり、今まで県外の施設に頼っていた重症新生児の治療が県内で完結できる時代となりました。

入院に関しましては、重症例を大学へお願いするようになり、一般小児科疾患を中心にお引き受けしております。

### 1. 外来

月、金曜日に吉永がQT延長をはじめ不整脈、心筋症、小児肥満、生活習慣病外来を、火、水、木、金に田中が先天性心臓病外来、月、木の外来を平林が行っております。

循環器に特化しているため、鹿児島県下の新生児の心雑音精査や、学校検診の2次3次検査を中心に当院でフォローしています。年間心エコー件数は平成24年 1,594 件、トレッドミル心電図 41件、小児ホルター心電図 250件でした。

乳児幼児は検査に薬物睡眠が必要なため、事前予約制としておりますが、心雑音、胸痛等で急がれる場合は、直接お電話頂きますとその都度、対応可能ですので宜しくお願い致します。

また福岡こども病院、大阪国立循環器病センターなどで手術された単心室やファロー四徴症などの患者さんや成人先天性心疾患患者さんも、循環器内科の先生に応援を頂きながら診療しております。

### 2. 入院

東3病棟を中心に鹿児島市北部、始良、霧島方面からの急性感染症、喘息や川崎病の入院を中心に診療しています。

### 3. 学会報告、研究、論文他

日本循環器学会、日本小児科学会、日本小児循環器学会などで発表を行い、研究活動では、QT 延長症候群、肥満とメタボリックシンドローム、乳児の突然死予防に関する研究を精力的に行っております。吉永は、『The QT intervals in infancy and time for infantile ECG screening for long T syndrome (Journal of arrhythmia Vol.27 No.3)』という論文で、第27回日本不整脈学会においてその年の最優秀論文賞にあたる木村記念研究奨励賞を受賞しました。

平成24年の夏休みには、厚労科学研究費で行われた「未成年者、特に幼児、小・中学生の糖尿病等の生活習慣病予防のための総合検診のあり方に関する研究」に450名の幼児、学童が参加してくれました。子どもたちがどのようなことに注意して生活していけば将来の糖尿病を含めた生活習慣病予防ができるか、発育歴、現在の体格、血液検査、生活習慣・食習慣アンケート、1日の総歩数などの調査を行っております。

(文責：小児科医長 田中 裕治)

# 職場紹介

## 【放射線室】



放射線室は現在、診療放射線技師14名、業務助手1名の計15名のスタッフで放射線検査や放射線治療業務に対応しています。当院の放射線医療機器は、一般撮影装置（立位用、臥位用各2台、計4台）、歯科撮影装置（パノラマ、デンタル装置各1台、計2台）、X線テレビ装置1台、ポータブル撮影装置3台、移動式Cアーム撮影透視装置1台、心血管撮影装置3台、CT装置2台、MRI装置1台、核医学検査装置2台、リニアック治療装置1台、腔内照射治療装置1台、腔内照射用Cアーム撮影透視装置1台、血液照射装置1台を保有しています。

今年の3月に大口径64スライスCT装置1台が新規に導入され、4月に64スライスCT装置から2管球方式128スライスCT装置に更新しました。CT装置及び核医学検査装置は、当院の中心的診療機能である循環器疾患の評価に大きな役割を果たしています。特に心臓3DCT検査は、年間800名以上を行っており、鹿児島県下1位の検査数を誇り、的確な造影手技及び三次元画像処理技術で高精細な画像情報の提供を行っております。核医学検査は2台体制で行うことで、予約待ちの短縮を図っており、平成24年度の総検査人数は、2,661名で、その内心筋シンチは2,163名であり、九州管内の国立病院機構においては1位の検査人数となっております。

一方、放射線治療においては、年間約200名のがん患者様の治療をおこなっており、来年から画像誘導システムを用いた強度変調放射線治療や定位放射線治療が可能な高精度放射線治療装置が導入されます。また、新しい治療法の普及や装置の進歩により、放射線診療・治療を取り巻く環境は日々変化し続けており、より良い検査や治療を患者様に提供できるように、継続的に学会や研修会への参加の他、各種専門資格の取得などに努めております。

特に被ばく管理は重要であり、当院の技師14名中、4名が第一種放射線取扱主任者の資格を、2名が放射線管理士の認定を取得し、医療被ばく相談やIVR時の被ばくレポート作成などにより最大限の注意を払いながら診療業務を行っており、全国で3番目となる医療被ばく低減施設認定を取得しています。

今後も放射線室では、患者様の立場に立ち、最新の医療技術を駆使し、高質の画像情報の提供や放射線治療技術を、安心して安全に提供できるよう心掛けてまいります。今後とも何卒よろしくお願い致します。

(文責：診療放射線技師長 藤中 正治)



# 新任紹介



放射線科

池田 俊一郎

10月から大学病院より異動となり放射線科で勤務させて頂いております。大学病院では主としてIVRを行ってまいりました。機会があれば手技的なことも関与することができたらと考えております。当院では読影業務が主体となり、新たな環境で慣れない部分も多くみなさまに御迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、どうぞ宜しくお願い致します。



血液内科

新居 亮彦

9月から鹿児島大学病院から当院血液内科に異動となり勤務させて頂いております。重度の方向オンチで働き始めてから三日たってもまだ院内で迷子になってます。色々ご迷惑をおかけしますが今後とも宜しくお願い致します。



脳血管内科レジデント

濱田 祐樹

平成25年10月1日付けで鹿児島大学病院神経内科・老年病学講座から異動して参りました濱田と申します。研修医の頃に一度当院にて仕事させて頂いたことがあり、右も左も分からない状況で先輩医師に仕事のノウハウを教えてもらいながら、一生懸命診療に携わろうとしていた頃のことを思い出します。その頃とは少し景色も気持ちも違った形で脳血管内科医として診療に携われるのを光栄に感じます。少しでも患者様のお役に立てるように努めて参りますので、宜しくお願いいたします。



小児科レジデント

平林 雅子

平成25年9月より小児科レジデントとして勤務させて頂いております。小児科医としては4年目になります。当院での勤務は初めてでわからないことや不慣れなことも多いですが、先生方をはじめスタッフの方々に助けてもらいながら仕事をさせて頂いております。小児循環器科ということで新たに勉強することも多く、一日でも早く一通りのことはこなせるようになっていたいと思っております。色々ご迷惑をお掛けすることもあると思っておりますがよろしくお申し上げます。



麻酔科レジデント

児玉 健士

平成25年10月から鹿児島市医師会病院から異動となりました。これまで勤務した病院の中でも広くきれいな手術室で、気持ちよく働いています。まだ慣れない環境で、私の不勉強もあり皆様にご迷惑をかけることもあると思いますが、精一杯させていただきますのでこれからよろしくお願ひします。



■お問い合わせ先

独立行政法人  
国立病院機構

**鹿児島医療センター** (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域医療連携室】 蔭田・四丸・永重・重吉・森・鶴頭・吉留・山口・酒井・櫻木・竹田津

直通電話▶099(223)4425 フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

